TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　360語

The Story of the First Moles

はじめてのモグラのおはなし

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Leannie Rach

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　1つの畑を半分ずつもつお金持ちとまずしい男。お金持ちの畑の種だけがかれてしまい、お金持ちとむすこは、ずるい作戦を思いつきます……。



A rich man and a poor man once owned a field together. The rich man owned the northern half, and the poor man owned the southern half. Each man sowed his ground with seed. The warm days came, the gentle rain fell, and the seed in the poor man's half of the field sprang up and put forth leaves. The seed in the rich man's half all died in the ground.

The rich man was selfish and wicked. He said, "The southern half of the field is mine," but the poor man replied, "No, the southern half is mine, for that is where I sowed my seed."

The rich man had a son who was as wicked as himself. This boy whispered, "Father, tell him to come in the morning. I know how we can keep the land." So

the rich man said, "Come in the morning, and we shall soon see whose land this is."

At night the rich man and his son pulled up some bushes that grew beside the field, and the son hid in the hole where their roots had been.

Morning came, and many people went to the field with the rich man. The poor man was sorrowful, for he feared that he would lose his ground.

"Now we shall see," said the rich man boastfully, and he called aloud, "Whose ground is this?"

"This is the ground of the rich man," answered a voice from the hole.

"How shall I ever get food for my children!" cried the poor man.

Then another voice was heard. It was that of the spirit of the fields, and it said, "The southern half of the field is the poor man's, and the northern half shall be his too."

The rich man would have run away, but the voice called, "Wait. Look where the bushes once stood. The boy in the hole and his wicked father shall hide in the darkness as long as they live, and never again shall they see the light of the sun."

This is the story of the first moles, and this is why the mole never comes to the light of day.

むかし、お金持ちの男とまずしい男が、1つの畑をいっしょにもっていました。お金持ちの男は北半分を、まずしい男は南半分をもっていました。ふたりとも、自分の土地に種をまきました。あたたかい日がやってきて、やさしい雨がふると、まずしい男の畑の種は芽を出して、葉をひろげました。お金持ちの男の畑の種は、ぜんぶ土の中でかれてしまいました。

お金持ちの男は自分のことしか考えない、わるい人でした。お金持ちの男は「畑の南半分はわたしのものだ」と言いましたが、まずしい男は「いいえ、南半分はわたしのものです。わたしが種をまいたところですから」と答えました。

お金持ちの男には、父親と同じくらいわるいむすこがいました。むすこはこっそり言いました。「お父さん、あしたの朝来るように言ってよ。土地を自分たちのものにする方法を思いついたんだ。」そこでお金持ちの男は言いました。「あしたの朝来なさい。この土地がだれのものか、すぐにわかるさ。」

夜になると、お金持ちの男とむすこは、畑のそばに生えていたしげみをひっこぬき、むすこは根があったあなの中にかくれました。

朝になり、お金持ちの男といっしょに、たくさんの人が畑へやってきました。まずしい男はかなしんでいました。土地をとられてしまうのではないかと心配だったのです。

「さあ、見てみよう」とお金持ちの男はいばって言い、大きな声でよびかけました。「この土地はだれのものだ？」

「この土地はお金持ちの男のものだ」と、あなの中から声が答えました。

「これでは、子どもたちに食べものをどうやって手に入れたらいいんだ！」とまずしい男はさけびました。

すると、べつの声が聞こえました。それは畑の精の声で、こう言いました。「畑の南半分はまずしい男のものだ。そして北半分も、まずしい男のものとする。」

お金持ちの男はにげだそうとしましたが、声がよびかけました。「待ちなさい。しげみがあったところを見てごらん。あなの中の子とそのわるい父親は、生きているかぎり暗やみの中にかくれてくらし、二度とお日さまの光を見ることはない。」

これがはじめてのモグラのおはなしです。そして、こういうわけで、モグラはけっして昼間の光の中に出てこないのです。

たんご と クイズ はじめてのモグラのおはなし

field 畑	seed 種	rain 雨
leaves 葉	bushes しげみ	hole あな
sun お日さま	moles モグラ	

Q1 芽を出したのは、どちらの畑の種？

① まずしい男の畑　② お金持ちの男の畑　③ 両方の畑

Q2 あなの中から「お金持ちの土地だ」と答えたのはだれ？

① 畑の精　② お金持ちのむすこ　③ モグラ

Q3 お金持ちの男とむすこは、さいごにどうなった？

① 畑をぜんぶもらった　② 遠い国へひっこした　③ 暗やみの中でくらすことになった

こたえ

Q1 ① まずしい男の畑の種は芽を出して葉をひろげましたが、お金持ちの男の畑の種はかれてしまいました。

Q2 ② お金持ちのむすこが、しげみをぬいたあとのあなにかくれて、畑の声のふりをして答えたのです。

Q3 ③ 畑の精によって、ふたりは二度とお日さまの光を見ずに、暗やみの中でくらすことになりました。はじめてのモグラです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典 英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Leannie Rach（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。